

第4章

ビジョンの全体像

Outline

- | | | |
|---|-------------------|----|
| 1 | ビジョンの概要 | 27 |
| 2 | ビジョンの名称 | 28 |
| 3 | ビジョンの位置づけ | 29 |
| 4 | ビジョン策定のプロセス | 30 |
| 5 | 将来像実現のための6つの柱 | 31 |
| 6 | 光合成プランベンチマーク25の設定 | 32 |

ビジョンの全体像

1 ビジョンの概要

◆計画（光市地域水道ビジョン）の名称

『ひかりかがやく水のまち ～光市水道光合成プラン～』

様々な課題に直面している光市の水道事業が、「光市の地域性」、「市民のみなさま」、「水道局」の三要素の力を合わせて、直面する課題を乗り越え、将来にわたって、他市に誇れる清浄な水のあるまちを守り続けたいという思いを込めて決定した名称。

◆基本理念

『未来へ走り続ける光のライフライン』

島田川の伏流水という恵まれた水源を持つ安心・安全な光の水を、将来も絶やすことなく安定して給水し続け、お客さまに愛される水道事業でありたいという思いから決定した基本理念。

◆目標期間

『平成 20 年度から 10 年間（平成 29 年度まで）』

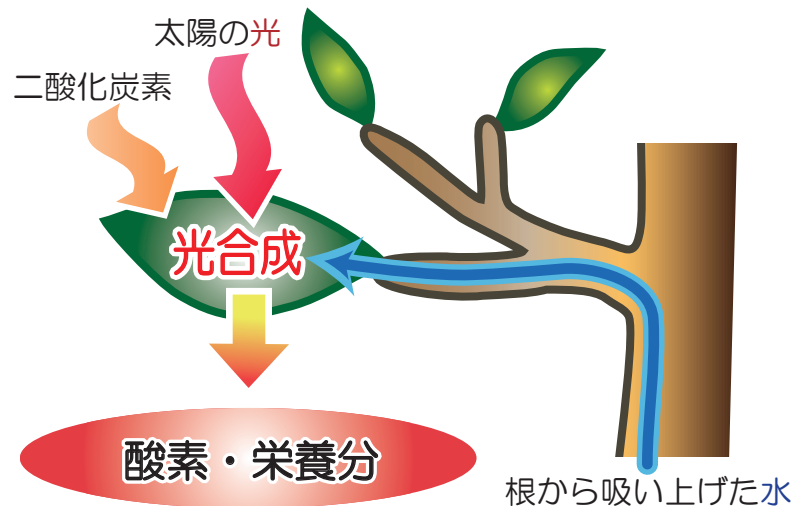
施設更新・高水準化期という新たなステージに突入した水道事業が、50 年後のあるべき姿の実現に向けて、直面する課題を乗り越えていくための様々な施策に取り組んでいく初動期間として、平成 20 年度から 10 年間とした。

2 ビジョンの名称

『ひかりかがやく水のまち ～光市水道光合成プラン～』

◆植物の光合成

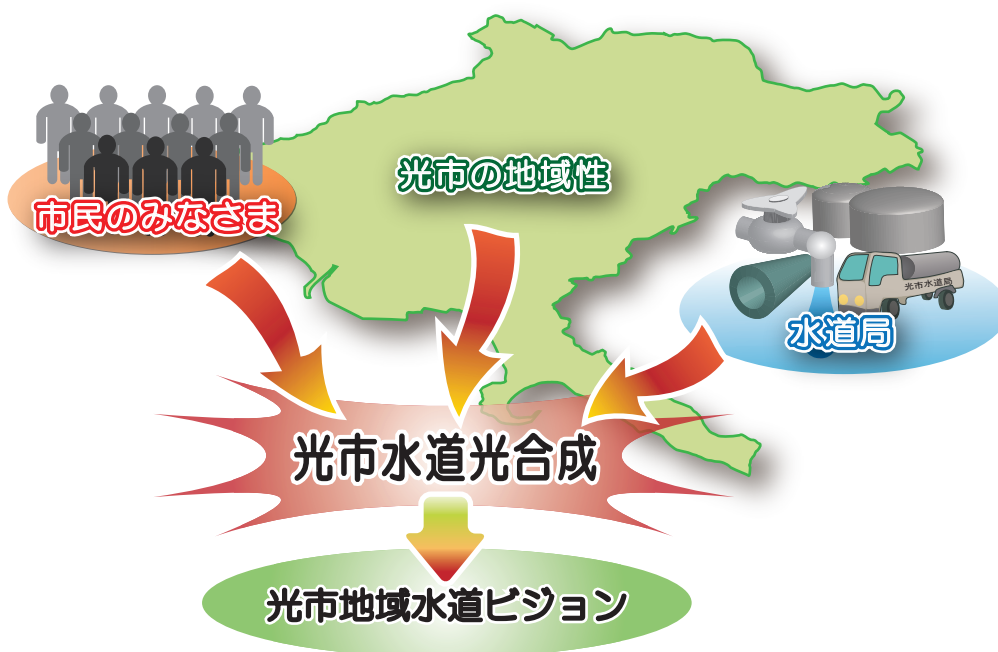
植物は、空気中の二酸化炭素と根から吸い上げた水を材料にして、太陽の光の力で光合成を行い、自らが成長するために必要な栄養分として使われる「でんぷん」と人間をはじめ多くの動物が生きていくために必要な「酸素」を作り出します。



◆光市水道事業の光合成

水道事業を取り巻く状況が大きく変化している現在、植物が光合成によって自らに必要な栄養分を作り出しているように、水道事業も自らの力で、直面する課題を乗り越え、成長し続けていくための栄養分を作り出していかなければなりません。

そこで、光市水道事業は、「光市の地域性」、「市民のみなさま」、「水道局」の三要素によって光合成を行いながら、安心・安全な水道を供給できる水道事業へと成長していきたいと思います。

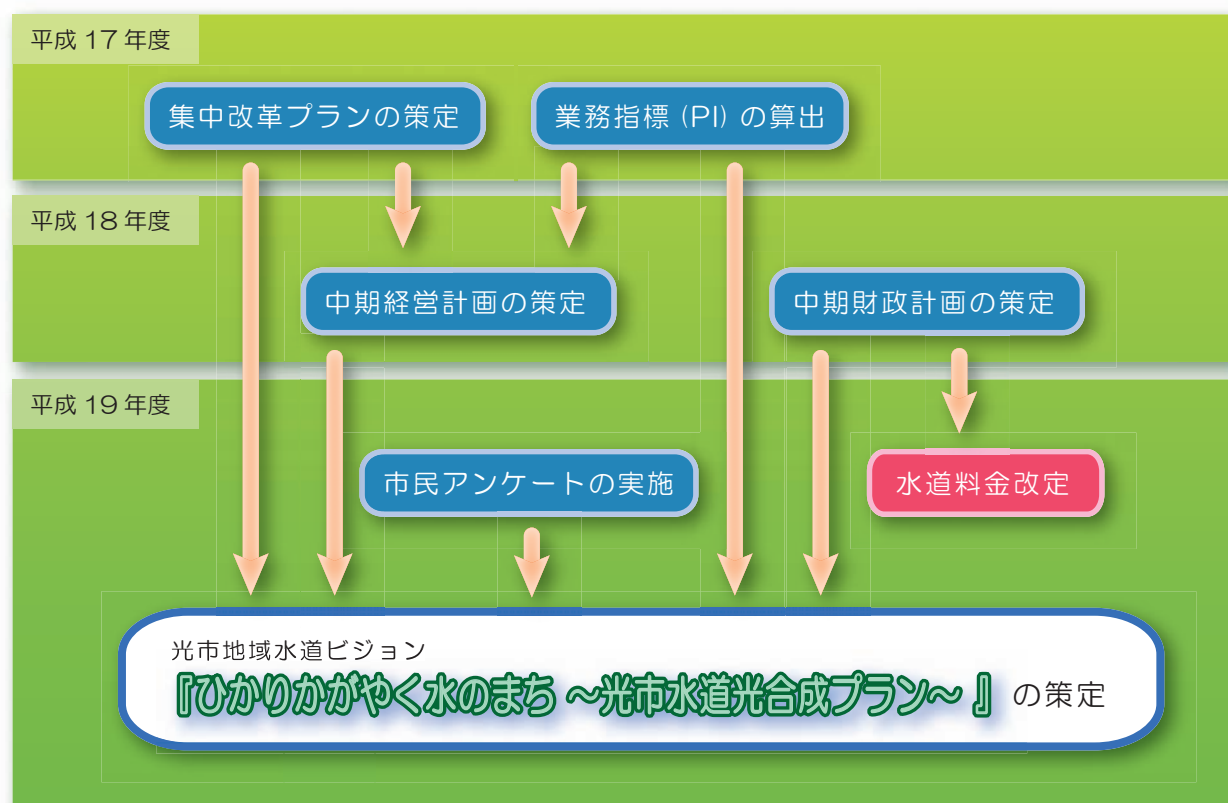


この光市水道光合成を行うことによって、水道事業が直面する課題を乗り越えていくための栄養分となる「水道ビジョン（でんぷん）」を策定し、さらに、「人々の暮らしに欠かせない水（酸素）」を将来にわたって供給し続けることで、植物の光合成と同様の役割を果たしていきたいと思います。

3 ビジョンの位置づけ

光市地域水道ビジョン『ひかりかがやく水のまち～光市水道光合成プラン～』は、平成 16 年に厚生労働省が作成した「水道ビジョン」の方針を踏まえ、光市水道事業が自らの事業の現状と将来見通しを分析・評価することで 50 年後のあるべき姿を描き、その実現のために今後 10 年間でどのような施策を行っていくかを具体的・明確に示したものであり、これまで光市水道局が策定してきた「集中改革プラン」、「中期経営計画」などの延長線上に位置する計画です。

また、この計画は水道事業の 50 年先を見据えた計画であり、よりよいまちづくりの実現を目指すという性格も有することから、他の関連計画（光市総合計画など）との整合性にも留意しながら策定しました。



◆ 水道ビジョン

厚生労働省が、我が国の水道の現状と将来見通しを分析・評価し、水道のあるべき将来像について全ての水道関係者が共通目標を持ち、その目標を達成することを目指して作成されたもの。

◆ 集中改革プラン

総務省において、地方公共団体における行政改革の推進のための新たな指針策定として「事務・事業の再編・整理、廃止、統合」、「民間委託の推進」、「定員管理の適正化」、「手当の総点検をはじめとする給与の適正化」などの平成 21 年度までの具体的な取り組みを住民に公表することを義務づけたもの。

◆ 光市総合計画

平成 19 年度を初年度とし、平成 28 年度までの 10 年間で、新しい都市経営を行うにあたって、市民と行政がともに創る光市の将来像と、それを実現するための基本的な方向性を示した「基本構想」を踏まえ、市民と行政が取り組むべき施策の基本的な目標と方向性を明らかにしたもの。

◆ パブリックコメント（意見公募手続）

公的な機関が規則の制定、あるいは計画などを策定しようとするときに、広く公に、意見・情報・改善策などをもとめる手続き。

4 ビジョン策定のプロセス

『ひかりかがやく水のまち～光市水道光合成プラン～』の策定にあたっては、はじめに、光市水道事業の現状分析を行い、今後、水道事業体として取り組んでいかなければならない課題を抽出するとともに、水道に対するお客さまの意見や要望を把握するために市民アンケートを実施しました。

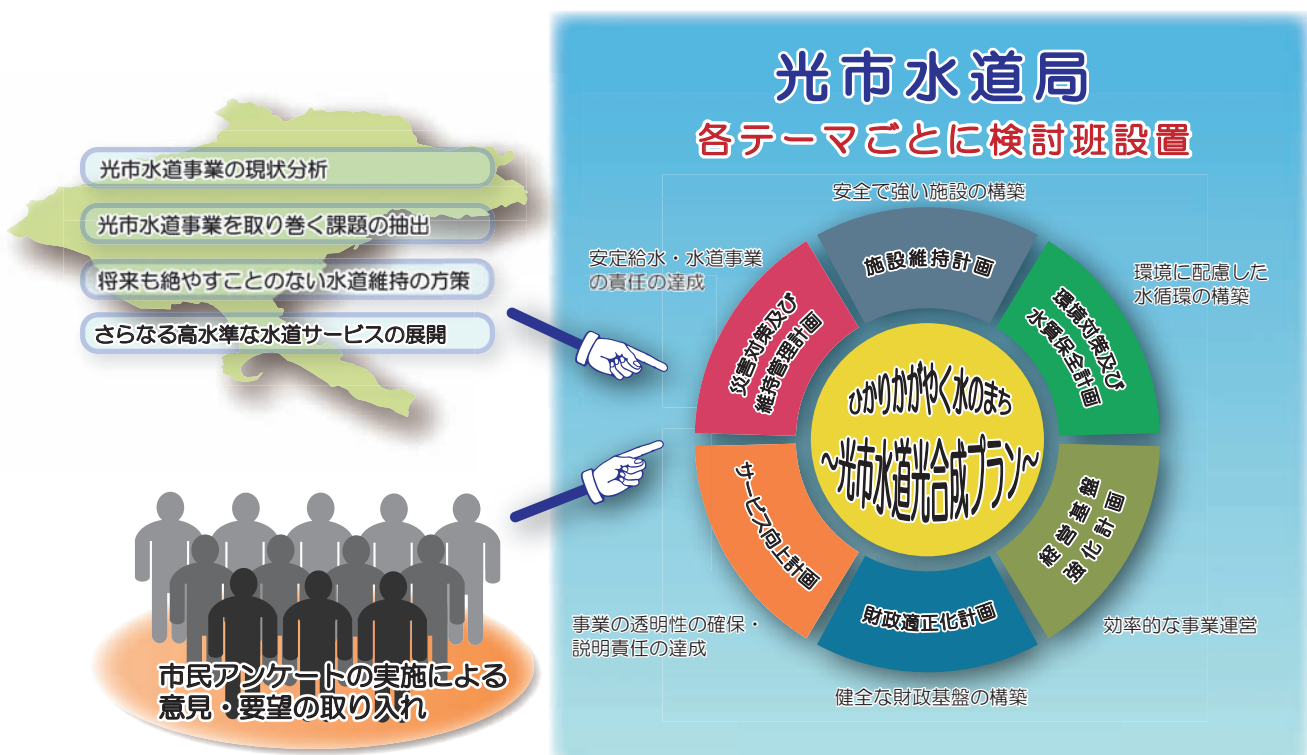
そして、重要なライフラインのひとつであり、島田川の伏流水という恵まれた水源を持つ安心・安全な光の水を 50 年後も絶やすことなく安定して給水し続け、お客さまに愛される水道事業でありたいという思いから、『未来へ走り続ける光のライフライン』という基本理念を決定しました。

次に、その実現に向けた計画を立てるため、「安全で強い施設の構築」を目指した施設維持班、「安定給水・水道事業の責任の達成」を目指した災害対策班、「環境に配慮した水循環の構築」を目指した環境対策班、「事業の透明性の確保・説明責任の達成」を目指したサービス向上班、「効率的な事業運営」を目指した経営基盤強化班の 5 つの班を設置し、それぞれの分野における現状と課題を把握し、具体的な施策を検討しました。

その一方で、各班の施策を実行に移していくための財政基盤を構築するため、平成 21 年度までの計画であった「中期財政計画」の見直しを行い、新たに本ビジョンの計画期間終了までを加味した財政適正化計画を策定しました。

こうして、水道局内部で計画の概要を決定したのち、パブリックコメントを実施することで、アンケートでは抽出しきれなかった幅広い方面からの意見の募集を行い、最終的な検討を行いました。

以上のような経過で、水道事業に携わる職員の考えばかりでなく、地域に暮らす多くの方からのご意見やご提言をいただいたことで、まさに、地域との協力によって光市地域水道ビジョンは完成に至りました。



5 将来像実現のための6つの柱

① 施設維持計画

～よりよい水道水のため安全・安定を目指し、継続して強い施設を構築します～

② 災害対策及び維持管理計画

～どんなときでも安心できる給水をし、ライフラインとしての責任を果たします～

③ 環境対策及び水質保全計画

～環境にやさしく、将来も絶やすことのない水循環を目指します～

④ サービス向上計画

～お客さまの声に耳を傾け、満足度の高いクリーンな水道を目指します～

⑤ 経営基盤強化計画

～水道サービスを発展・継承し、お客さまに信頼される高水準な水道事業を目指します～

⑥ 財政適正化計画

～ビジョン達成に向けた財政基盤の構築に努めます～



「光市の地域性」、「市民のみなさま」、「水道局」の三要素から作り出した6つの柱で、光市水道事業の目指す将来像を支え、実現していく。

6 光合成プランベンチマーク25の設定

『ひかりかがやく水のまち～光市水道光合成プラン～』では、自らの事業活動を定量化し、評価することで、各施策への取り組みの進捗状況を把握するため、日本水道協会が制定した水道事業ガイドラインに基づく業務指標や独自に設定した業務指標を活用しています。

そして、目標達成に向けた数値管理、進捗状況の公開を行っていくことで、本ビジョンをより有意義なものにしていくため、この25の指標のそれぞれについて、基準値となるベンチマークを設定しました。

▶ 光合成プランベンチマーク25

ベンチマーク ナンバー 『数値目標の名称』

【目標数値】

過去の推移			光合成プランベンチマーク		
平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成20年度	平成24年度	平成29年度
→			過去の数値を基に目標数値設定 →		

Point

⇒ 数値設定の目的、内容を表示

【指標の算出式】

⇒ 各数値を算出する式を表示

【指標の分析】

⇒ 解説が必要な項目、数値について解説

◆ 水道事業ガイドライン

社団法人日本水道協会が、平成17年1月にISO(国際標準化機構)による水道サービスの国際規格化の流れを受け、「安心」、「安定」、「持続」、「環境」、「管理」、「国際」の6つの分類による137項目の業務指標を設定した。